

# 長畝ふるさと通信

【2015年2月号】

## ■ 「長畝沖」の生産団地



長畝集落の西側に「長畝沖」と呼ばれる約40ha程のコメ生産団地があります。ダムから引いた田んぼの用水を貯め、田んぼに供給する「ファームポンド」と呼ばれる貯水池の脇に「完工の碑(左写真)」があります。そこには昭和54年第二次構造改善事業(それまで小さかった田んぼを30a区画に基盤整備した)完成、平成19年パイプ化暗きょ排水(パイプ配水=ファームポンドから田んぼ1枚づつにパイプを繋げ、蛇口を開けると水が出る

仕組み、暗きょ排水=田んぼに地中管を埋没して、必要ときに田んぼの水が抜ける仕組み)完成と記してあります。つまり30年の歳月を重ねる間に、それまでばらばらだった田んぼを同じ面積に整備して、必要ときに水を入れたり抜いたりする仕組みを作り上げたのです。

ところが近年は更なる効率化が追求され、農業機械の大型化とともに田んぼは30aから100a(1ha)へと造り替えられる団地が島内にも出現しました。新潟平野ではすでに2~3haは当たり前、北海道では5ha区画の団地まであるそうです。コメの産地間競争が激化していく中で、コスト削減の名の下に田んぼが更に巨大な「コメ生産装置」へと造り替えられようとしています。「昔懐かしい田んぼの風景」も時代とともに変わろうとしています。



## ■ 東京商談会



2月22日、東京錦糸町で行われた「コメの商談会」に出展しました。毎年この時期に開催される商談会ですが、今年はいつもの年の倍近い出展数となり、産地間競争が今後激しくなることを予感します。また、これまでに見たこともない新品種・新商品の出品も多く、おコメも多様性、嗜好性が強い食べ物になったものだと感じました。



組合のお米を販売して下さっているお米屋さんへも何軒かご挨拶に伺いました。スーパーとは全く違うお米屋さんならではの販売方法を勉強させていただきました。人とのつながりを大切に、産地や生産者を丁寧に紹介してくれています。日本のコメの流通量のうち、お米屋産さんのシェアはわずか4%程だと聞いたことがありますが、これからもこうしたお米屋さんにつながって地道に販売していく事が一番だと実感しています。

## ■ 肥料入荷しました

いよいよ27年産のスタートです。春に田んぼへ散布する肥料、約1800袋が入荷しました。付け品種ごとに使う肥料は違います。コシヒカリにはコシヒカリ、こしいぶきにはこしいぶき専用の肥料があり、田んぼへ散布する量も品種ごとに異なります。組合では「朱鷺と暮らす郷認証制度」に沿った特別栽培米基準のお米がほとんどなので、化学肥料割合の低いものを選んでいきます。

3月に入ると早速畦塗りです。以前はお天気の良い日は田んぼのあちこちに「畦切り」に出る人たちがいて、5月の田植えまで畦塗りや肥料を撒いたりと厳しい仕事が続きましたが、今はトラクターでほとんどの畦塗りをし、肥料散布は田植えと同時に機械散布します。機械化が進み作業負担は劇的に軽減されましたが、それと引換に稲作の懐かしい風景が失われてしまいました。これも時代でしょうが...



## ■ 新しい袋にしました

10kgの米袋を更新しました。青い空と白い雲、黄金色の稲穂をデザインし、全体的に明るいイメージにしました。古き良き時代を振り返ってばかりはいただけません。明るい未来に向けて「一歩前へ」。

27年産米も「美味しく」創ります。